

それぞれの経過での例(軽度の時期)

一見守りがあれば日常生活は自立していますー

【本人の様子】

自分が何をしたかの出来事を忘れてしまったり、同じことを何回も言ったり聞いたりします。また、買い物で必要なものを必要な量だけ買うことができなかったり、誰かがついていないと代金の支払いが正しくできないことがあります。

本人・家族向けアドバイス

①医療や介護のサポートを受ける

健康管理や持病のことだけでなく、認知症の症状を含めて、かかりつけ医のアドバイスを受けましょう。

また、安心して生活していくためにその人にあったサービスや事業の利用を検討していきましょう。

受診する P.21

●かかりつけ医

生活支援

●訪問型サービス P.22

●配食サービス P.22

(「豊田市介護保険・高齢者福祉ガイドブック」)

通う場所 P.22

●通所型サービス・デイケア・認知症対応型通所介護

②周囲の理解や見守りを求める

家族だけでサポートしていくのではなく、自治区や知人などにも理解を求め、生活の中でさりげなく手助けをしてくれる周囲の人の数を増やしましょう。

相談する

●地域包括支援センター P.19-20

●認知症カフェ P.24

●認知症介護家族会 P.24

地域での見守り

●民生委員 P.20

●認知症サポーター P.23

③住まいの変更や入所の検討も

生活の場を自宅ではなく高齢者住宅などへの住み替えも選ぶことができます。見守りや食事の提供など、ゆるやかに生活を支援する住まいもあります。

自宅での介護が難しくなった場合に備え、施設について調べたり、見学しておくのもよいでしょう。

入所する P.22

●有料老人ホーム・ケアハウス

●サービス付き高齢者向け住宅

●認知症高齢者グループホーム

(認知症対応型共同生活介護)

●シルバーハウジング

【例】Bさん(女性)75歳 一人暮らし

Bさんは、3年前に夫と死別し、一人娘の長女も結婚を機に隣町に移り住んでいるため、現在は一人で暮らしています。

ある日、長女が久しぶりにBさんの家を訪れると、Bさんは少しあわてた様子で長女を出迎えました。ふと台所に目をやると、焦がした鍋があり、また冷蔵庫には同じ食材がいくつも入っていました。



ここに相談しました。このサービスを利用しました。

●かかりつけ医

長女はBさんと一緒にかかりつけ医を受診すると、かかりつけ医も最近Bさんが受診しないので心配だったとのことでした。

結果、認知症との診断で服薬を始めることになりました。

医療機関情報 P.21へ



●薬局

一人暮らしできちんと薬が飲めるか不安でしたが、週に1回薬剤師が訪問して服薬指導をしてもらうことになりました。飲み方も1日1回朝に飲めばいいよう、まとめてもらいました。

●民生委員

長女はBさんの一人暮らしが心配であったため、地域包括支援センターに相談したところ、地域の民生委員を紹介してもらえました。

民生委員に連絡を取ってみると、民生委員も最近Bさんのことを心配していたとのことでした。長女からの相談に、これからBさんを見かけた際は、体調や生活に変わりはないか、声をかけてみるとのことでした。不安を感じていた長女でしたが、民生委員の協力で安心しました。

●市役所 介護保険課

料理や掃除の手伝いも希望したBさんは、介護サービスを利用するため市役所で申請を行いました。その結果、介護サービスの利用が可能となりました。

市役所窓口 P.20

●訪問型サービス

地域包括支援センターの職員と相談して、家庭訪問をして家事支援を行うホームヘルパーを利用することにしました。料理が好きなBさんは、ホームヘルパーと一緒にいることで、安全に料理を楽しんでいます。

地域包括支援センター P.19-20へ

民生委員について (市役所よりそい支援課) P.20へ